

【表紙】

|                |                                      |
|----------------|--------------------------------------|
| 【提出書類】         | 内部統制報告書                              |
| 【根拠条文】         | 金融商品取引法第24条の4の4第1項                   |
| 【提出先】          | 近畿財務局長                               |
| 【提出日】          | 平成25年6月28日                           |
| 【会社名】          | 株式会社サイネックス                           |
| 【英訳名】          | SCINEX CORPORATION                   |
| 【代表者の役職氏名】     | 代表取締役社長 村田 吉優                        |
| 【最高財務責任者の役職氏名】 | 該当事項はありません。                          |
| 【本店の所在の場所】     | 大阪府大阪市中央区瓦屋町三丁目6番13号                 |
| 【縦覧に供する場所】     | 株式会社大阪証券取引所<br>(大阪府大阪市中央区北浜一丁目8番16号) |

## 1【財務報告に係る内部統制の基本的枠組みに関する事項】

代表取締役社長村田吉優は、当社及び連結子会社（以下「当社グループ」）の財務報告に係る内部統制の整備及び運用に責任を有しており、企業会計審議会の公表した「財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準並びに財務報告に係る内部統制の評価及び監査に関する実施基準の設定について（意見書）」に示されている内部統制の基本的枠組みに準拠して、財務報告に係る内部統制を整備及び運用しております。

なお、内部統制は、内部統制の各基本的要素が有機的に結びつき、一体となって機能することで、その目的を合理的な範囲で達成しようとするものであるため、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性があります。

## 2【評価の範囲、基準日及び評価手続に関する事項】

当社グループの財務報告に係る内部統制の評価は、当事業年度の末日である平成25年3月31日を基準日として実施いたしました。評価に当たっては、一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠いたしました。

本評価においては、連結ベースでの財務報告全体に重要な影響を及ぼす内部統制（以下、「全社的な内部統制」）の評価をおこなった上で、その結果を踏まえて、評価対象とする業務プロセスを選定いたしました。当該業務プロセスの評価においては、選定された業務プロセスを分析した上で、財務報告の信頼性に重要な影響を及ぼす統制上の要点を識別し、当該統制上の要点について整備及び運用状況を評価することによって、内部統制の有効性に関する評価をおこないました。

財務報告に係る内部統制の評価の範囲は、当社グループについて、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性の観点から必要な範囲を評価の対象といたしました。

財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性は、金額的及び質的影響の重要性を考慮して決定しており、当社及び連結子会社1社を対象として行った全社的な内部統制の評価結果を踏まえ、業務プロセスに係る内部統制の評価範囲を合理的に決定いたしました。

業務プロセスに係る内部統制の評価範囲については、前連結会計年度の売上高（連結会社間取引消去後）の金額が高い拠点から合算していき、その概ね3分の2に達している当社を重要な事業拠点として選定し、企業の事業目的に大きく関わる勘定科目である売上高、売掛金及び棚卸資産に至る業務プロセスを評価の対象といたしました。さらに、選定した重要な事業拠点に係らず、重要な虚偽記載の発生可能性が高く、見積りや予測を伴う重要な勘定科目に係る業務プロセスや、重要性の高い取引又は事象に関する業務プロセスを、財務報告への影響を勘案して個別に評価対象に追加いたしました。

## 3【評価結果に関する事項】

上記評価手続を実施した結果、当社代表取締役社長村田吉優は、平成25年3月31日現在における当社グループの財務報告に係る内部統制は有効であると判断いたしました。

## 4【付記事項】

該当事項はありません。

## 5【特記事項】

該当事項はありません。